

《公開講演会記録》

習近平体制のスタート

横浜市大名譽教授

矢吹晋



新华网
WWW.NEWS.CN

新体制が 生まれるまで

中国共産党の第18回党大会が終り、胡錦濤の後継となる習近平新体制の人事が決定した。胡錦濤は軍事委主席をも含めて完全引退し、老醜をさらす江沢民院政に一矢を報いた。11月15日記者会見が行なわれたトップ7の顔触れは、習近平（国家主席）、李克強（國務院総理）、張徳江（全人代委員長）、俞正声（政協主席）、劉雲山（国家副主席、中央書記処常務書記）、王岐山（中共中央紀律検査委員会書記）、張高麗（常務副総理）である。括弧内は担当分野を私が推定したものだ。

一瞥して党内の激しい権力闘争の結果、老獪な江沢民が、押し弱い胡錦濤を完璧にノックアウトした印象を否めない。激烈な権力闘争の結果、大会の開催自体が1カ月も遅れた。これは人事の調整が混迷をきわめた結果と見てよい。仁義なき権力闘争のすさまじさをまざまざと示

（表1）

政治局常務委員	7	生年	歳	職務名称	職務分類	
1	習近平	2022まで	1953.6	59	国家主席、総書記	党務1
2	李克強	2022まで	1955.7	57	國務院総理	政務1
3	張徳江	1期のみ	1946.11	66	全人代委員長	全人代
4	俞正声	1期のみ	1945.4	67	政協主席	政協
5	劉雲山	1期のみ	1947.7	65	国家副主席、書記処常務書記	党務2
6	王岐山	1期のみ	1948.7	64	中央規律検査委員会書記	規律検査委
7	張高麗	1期のみ	1946.11	66	國務院常務副総理	政務2



習近平



李克強



張德江



俞正声



劉雲山



王岐山



張高麗

すのは、李克強を除いて胡錦濤の推した
共青团系列の顔触れが皆無であることだ。
牛涸「十八大常委六度変局」多維新聞
11月14日を参照しつつ、その経緯を分析
して見よう。

昨年11月、イギリス人ビジネスマンの
ニール・ヘイウッドが薄熙来夫人・谷開
来によって毒殺される事件が起こった。
2月に薄熙来の右腕、王立軍・重慶市公
安局長（副市長兼任）の米国総領事館
（成都）への亡命騒動を契機にこのスキャ
ンダルが明らかになり、世界を騒がせた。
胡錦濤執行部はこれを奇貨として、薄
熙来処分に踏み切り、3月14日の政治局
会議で薄熙来を重慶市委書記から解任す
ることに成功した（中共中央弁公庁3月
15日通知）。

この勢いを借りて、胡錦濤派に優勢な



李源潮



汪洋



栗戰書

形で常務委員選考人事が始まった。

まず5月7日北京の京西賓館で「省級・部級の幹部」（各省級書記・副書記と國務院各部長・副部長級の幹部からなる高級幹部群を指す、引退者を含む）360名が集まり、「常務委員5名」と「政治局委員11名」を選ぶために、各自がそれぞれ1票、計2票を投じた。ここで常務委員の第1次候補35名のリストがつくられた。

ここまでは胡錦濤の思惑通りに進んだ。たとえば常務委員5名を選ぶとは、すでに確定している習近平と李克強に加えて5名であるから、「7名からなる常務委員会」を想定していた。すなわち江沢民が多数派工作を意図して9名に増やした定員を「鄧小平時代の7名に戻すこと」が含意されていたわけだ。

ところが天に不測の風雲あり。ここから江沢民の逆襲が始まる。7月初め「党内高層生活会」が開かれた。これは「党内会議」であり、党員の規律等を相互に点検し合うもので、政治局会議や中央委員会等、表の正式会議とは異なる（ちなみに1987年初の胡耀邦失脚事件は、彼が「党内生活会」で長老たちから批判された一幕が始まる）。

この席で賈慶林（政協主席）が江沢民

の意を体して、胡錦濤の番頭役の令計画（中共中央弁公庁主任）の息子のスキヤンダルを提起した。息子がフェラーリを運転して事故死したという高級幹部子弟にありがちな話だが、胡錦濤はこれをかばいきれなかった。その後、令計画は中共中央統一戦線部長に左遷され、政治局入りを入り口で阻まれた。胡錦濤の長年の秘書・令計画の役割は、胡錦濤の意を体して党大会の事務局をとりしきることであり、彼の更迭は大会準備を大混乱させた。賈慶林の狙いは明らかに「将」胡錦濤を射んとすれば、馬「令計画」を射よ」を地で行くものであり、江沢民派は初戦に勝利した。

8月上旬から中旬にかけて北戴河（河北省北部の海浜リゾートで、高級幹部の別荘地）会議が開かれたが、令計画の後任には、習近平が栗戰書（1950年8月生まれ、貴州省書記）を抜擢して中共中央弁公庁主任とし、以後、栗が大会準備の事務局を務めた。党大会前夜にその事務局のカナメの人物が「射落とされる」のは、改革開放期30年来初めての珍事である。

さて北戴河会議では、常務委員を7名にしぼることを前提に、常務委員候補を9名までしぼった。この9名の絞り込み



孫政才



許其亮軍事委副主席



範長竜軍事委副主席



胡春華

リストは発表されていないが、これまでの慣例からして当時の政治局委員のうち常務委員昇格の可能性をもつ、俞正声、劉雲山、張徳江、汪洋、李源潮、王岐山、張高麗、劉延東のほか、「不明の新人」一人であろう。

このころ、「俞正声昇格に反対の声が強い」といったウワサが故意に流され、同情を得た形で俞正声昇格が固まる。その煽りで、この国家副主席ポストに目されていた李源潮がまず外されてしまう。かなり手の込んだ情報操作、謀略と見てよい。ここで胡錦濤は李源潮（中央組織部長）を失う。

9月初めから権力闘争はいよいよ激化し、人事調整工作は壁にぶつかる。1カ半月後の10月中旬になって、ようやく「差額選挙（当選枠より候補者を多くす

る）による結着」案に落ち着き、10月22日午前、政治局会議が開かれた。会議前に「現任政治局委員24名」と「引退した元常務委員11名」（牛汨は書いていないが、07年に辞めた曾慶紅、呉官正、羅幹、02年に辞めた李鵬、朱鎔基、李瑞環、尉建行、李嵐清、97年に辞めた喬石、92年に辞めた胡啓立、そして万里などか）、計35名の投票により、習近平、李克強を含めて7名の顔触れが揃った。このリストに汪洋の名はなかった。江沢民派による多数派工作の結果だ。ここで胡錦濤は汪洋をも失う。

この手続きを経て、常務委員7名がようやく内定した。顔触れを見て驚かされるのは、共青团出身者が李克強ただ一人にすぎず、下馬評の高かった李源潮と汪洋がともに外されたことだ。

江沢民直系の人々、たとえば張徳江、劉雲山、張高麗のほか、元祖太子党ともいべき俞正声（父親黄敬は、後に毛沢東夫人となった江青の最初の夫）が加わる。江沢民は、「7名にしぼる」という胡錦濤提案を逆手にとり、「李源潮、汪洋を外す」寝業に成功した形だ。少数精鋭を意図した胡錦濤の思惑の失敗は明らかだ。もし9人枠を堅持したならば、李源潮と汪洋を加えることができた可能性

が強い。かつて江沢民がポストを2つ増やして自派を優勢に導いたのとは、まるで逆のポスト争奪戦となった。

顧みると胡錦濤時代は、2期10年のうち1期目は、常務委員9名のうち江沢民派5対胡錦濤派4で少数、2期目は江沢民派6対胡錦濤派3（温家宝と李克強）の構図でやはり少数派にとどめられた。胡錦濤はいわば雇われマダムのような地位に置かれた。江沢民は西太后、にいびられる光緒帝、胡錦濤のイメージは、的確な比喻なのだ。その結果「和諧社会」作りというスローガンは、政策としては何も実現できず、政治改革停滞の下で、権力の腐敗は深まり、社会矛盾は激化した。

(表2)

政治局員18人	生年	歳	現職又は就任予定ポスト（1部は推定）	所属分類
1 郭金竜、1期のみ	1947.7	65	北京市党委書記、胡錦濤側近	省市レベル1
2 韓正、2期可	1954.4	58	上海市党委書記、上海閥	省市レベル2
3 孫春蘭、2期可	1950.5	62	天津市党委書記	省市レベル3
4 孫政才、2期可	1963.9	49	重慶市党委書記、ポスト習近平か	省市レベル4
5 胡春華、2期可	1963.4	49	広東省党委書記、共青团、ポスト習近平か	省市レベル5
6 趙楽際、2期可	1957.3	55	新疆自治区党委書記	省市レベル6
7 張春賢、2期可	1953.5	59	中組部部长	中央各部1
8 劉奇葆、2期可	1953.1	59	中宣部部长	中央各部2
9 孟建柱、1期のみ	1947.7	65	政法委書記、前公安部長	中央各部3
10 栗戦書、2期可	1950.8	62	中央弁公庁主任、前貴州省党委書記、令計画が失脚し、習近平が抜擢	中央各部4
11 劉延東、2期目	1945.11	67	副総理、前統一戦線部長	国务院1
12 汪洋、2期目	1955.3	57	副総理、共青团、政治局入りならず	国务院2
13 馬凱、1期のみ	1946.6	66	副総理、前国务院秘書長	国务院3
14 王滬寧、2期可	1955.10	57	国务委員、前書記処書記、江沢民側近	国务院4
15 李源潮、2期目	1950.11	62	全人代副委員長、政治局入りならず	全人代1
16 李建国、1期のみ	1946.4	66	全国政協副主席、陝西省書記	政協1
17 範長竜、1期のみ	1947.5	65	中央軍委副主席、92・94 中央党校通信教育（16集団軍参謀長時代に）	軍1
18 許其亮、2期目	1950.3	62	中央軍委副主席、前空軍指命令	軍2
書記処書記7				党内地位
1 劉雲山	1947.7	65	前中宣部部长	政治局常務委員
2 劉奇葆	1953.1	59	中宣部部长	政治局委員
3 趙楽際	1957.3	55	新疆自治区党委書記	政治局委員
4 栗戦書	1950.8	62	中央弁公庁主任	政治局委員
5 杜青林	1946	66	前統一戦線部長、政協副主席	中央委員
6 趙洪祝	1947.7	65	中組部副部长	中央委員
7 楊晶	1953.12	59	国家民族事務委主任、モンゴル族	中央委員

政治局委員・軍事委の顔ぶれ

次に政治局委員レベルの人事（表2）を一瞥しておきたい。定数18名について出身母体を見ると、省・市レベルの書記は6名である。4直轄市のほか、広東省と新疆自治区の書記が選ばれ、全体の33%を占める。中共中央各部と国務院からは、それぞれ4名ずつ計8名であり、全体の44%を占める。残りの23%を軍1割強と全人代・政協1割強で分ける構造だ。政治局委員の顔触れで注目されるのは、孫政才（重慶市委書記）と胡春華（広東省委書記）である。平均60歳前後で選ばれる委員と比べて、この2人は49歳であり、他のメンバーよりも10歳若い。これはポスト習近平時代のリーダーとして選ばれている。

したがって仮に現行の人事制度が維持されるとすれば、2017年の党大会では、2人揃って常務委員に昇格する可能性が強い。これは5年前に習近平と李克強が昇格したケースと同じだ。

軍代表のポスト2つも変わらない。軍事委副主席のポストは、国務院ならば副総理と同格、国防部長は、普通の国務院各部長と同格に位置づけられている。新

軍事委員会

地位	氏名	生年	歳	党・軍内の職務	備考
主席	習近平	1953	59	文 民	18期1中全会で昇格
副主席	範長竜上将	1947.5	65	政治局委員	瀋陽軍区参謀長 済南軍区指令員
副主席	許其亮上将	1950	62	政治局委員	空軍・瀋陽軍区
委員 8ポスト				部長+4総部+3兵種	
委員1	常万全上将	1940.12	72	国防部長	瀋陽軍区、南京軍区指令員
委員2	房峰輝上将	1951.4	61	総参謀部部長	広州軍区参謀長 北京軍区指令員
委員3	張陽上将	1951.8	61	総政治部主任	広州軍区政治委員
委員4	趙克石上将	1947.11	65	総後勤部部長	南京軍区指令員
委員5	張又侠上将	1950.7	62	総装備部不調	父張宗遜が集團軍司令当時、 習仲勲は政委。親子2代の 交友関係。
委員6	呉勝利上将	1945.8	67	海軍指令員	南海艦隊指令員
委員7	馬曉天上将	1949.8	63	空軍指令員	南京軍区空軍指令員 副総参謀長
委員8	魏鳳和上将	1954.2	58	第二砲兵指令員	第二砲兵参謀長

軍事委員会のメンバーは表3の通りである。胡錦濤の完全引退は、引き際のいさぎよさとしては好感がもてる。

次に胡錦濤の政治報告を読んで見よう。12項目からなる。1. 中国の特色ある社会主義の道や、2. 「小康社会」の建設と改革開放の深化、3. 社会主義市場経済体制の整備と経済発展方式の転換など、大部分の項目はこれまでと基本的に変わらない。あえて違いを見ようとすれば、民生改善が強調され、エコ文明づくりの脈絡で「海洋資源の開発能力を高め、海洋權益を守り、海洋強国を築く」と明記した点であろう。「新たな時期の積極的防衛の軍事戦略方針を貫くために、海洋・宇宙・ネット空間の安全保障を重視すべきだ」としたことも注目しておく必要があるだろう。

以下、参会者と講師の一問一答

問 鄧小平時代には顧問会議というのがあった。しかし、ここ10年は江沢民が1人、長老として頑張っていた。今度、胡錦濤がすっぱりやめたことで、江沢民も口をだせなくなるだろうから、中国共産党の長老支配はこれで終わるのではないか。それと今度の人事を見ると、会長と社長だけが若くて、あとの重役がみな年

寄りという布陣だが、過渡的な体制ではないか。これは長老がいなくなった分、若い2人を助ける意味があるのではないか。

答 今度の年寄りの5人の常務委員は5年後にやめるわけだが、彼らがすんなりやめるかどうか。やはり自分に都合のいい人間を押し上げようと、江沢民と同じことをする心配がある。5年たってみないと分からないが。

問 習近平は清華大学を卒業しているが、本当に実力で入ったのだろうか。幹部の子どもということでは優遇されたのではないか。

答 彼は文革中に陝西省の農村に下放されていて、そこから推薦を受けて大学に入ったのだから、入学試験を受けたわけではない。それから彼は職についてから博士号をとっているが、とても自分で書いたとは思えない。そんな時間はないはずだ。しかし、だからと言って、優秀でないというわけではない。優秀でなければ、ゴマンという太子党の中から頭角を現すことはできない。太子党ならだれでも偉くなれるというわけではない。

問 いま格差問題に関心が集まっている。温家宝が懸案の所得分配制度改革をやると言ったとたんにニューヨークタイムズ

に彼の資産の話が出た。改革は進むのだろうか。

答 そうは思えない。胡錦濤は10年前から調和のとれた社会をつくると言い続けて、結局ダメだった。いったん特権を握った人間はそれを手放さないから、金持ちから取り上げて貧しい人間にまわすことはできないと思う。私は「支配階級」という階級が出来たと考えている。今度の人事を見ても、そういう構造を守るための体制だということがよくわかる。そしてこの体制はちょっとやそっとでは崩れない。極端にいえば、もっと悪くならないければ下からの地殻変動は起こらないと、極めて悲観的な観測をしている。

問 10年後、15年後の中国はどうなっているのだろうか。

答 習近平政権は10年続く。そして彼は政治改革はやらない人間ということで選ばれた。だから大きな体制変化はないだろう。体制を変えるには、野党のような勢力がなければならぬが、それは完璧に抑えられている。今はいない。せいぜい「我愛釣魚島」のポスターの『島』を消して、「わたしは魚釣りが好き」に変えるといった消極的な抵抗があるだけだ。組織がない。共産党はそういう組織は許さない。腐敗しても、そう簡単に崩れる

とは思わない。

問 薄熙来の妻の谷開来はなぜ英国人のヘイウッドを殺したのか。金は沢山あるのに、殺すとは思えない。真実は死体から臓器を取る商売を彼らはやっていたのではないか。それが原因ではないか。

答 私も金が理由とは思わない。臓器売買のことは知らないで、ノーコメントだが、英国の諜報機関、MI5とかMI6とかとの関連があるのではないかと感じてゐる。

問 尖閣の問題では、1978年に平和友好条約交渉が北京で行われた時、激論になってどうにも話がつかなかった。そこで当時の中江アジア局長がいったん日本へ帰って、福田首相に状況を説明し、福田首相は「どちらも所有権はない」ということで話をつけることにした。しかし、結局は鄧小平氏が出てきて、「現状維持でいい」と言ってくれたのだと聞いている。こういう経過があるのに、日本政府がなぜ「領有権問題はない」と言い張るのかが分からない。

答 私も「領有権問題はない」の根拠は分からない。ただ鄧小平氏の「現状維持でいい」というのは、日中間に見解のずれがある。日本側は「日本の実効支配を認めた」と解釈し、中国側は「係争状態

のままにしておく」と解釈しているようだ。

問 中国は日本をどう思っているのだろうか。

答 ここまで関係が悪化したのは、基本的には日本側がまずかったと思う。中国が軍備を増強してきたことは事実だが、それに乗るような形で日本側から中国を挑発してきた。小泉政権時代は尖閣に上陸した人間はそのまま中国に送り返した。あれほど、江沢民と喧嘩したけれども、すくなくとも野田政権が終わらなければだめだろうが、新しい政権が出来ても、改善には時間がかかるだろう。またその政権が憲法改正などということを出したら、なかなか関係好転の展望は見えてこない。

(11月16日・アジア研究懇話会)

講師略歴 (やぶき すずむ)

1938年 福島県生まれ

1962年 東京大学経済学部卒業

横浜市大教授

現在 横浜市大名誉教授

『チャイメリカ』など多数

寧夏プロジェクト

中国側研修員が来日

平成24年度の「寧夏地区における桑の栽培と飼料化、およびそれによる羊・牛の飼育法普及」プロジェクトの中国側研修員3人が11月来日、20日、協会で報告会が開かれた。

中国側責任者の主万福氏(自治区対外科学技術交流センター主任)は、桑の栽培面積も拡大し、飼育中の羊、牛も増えて、プロジェクトは順調に進んでいる。霊武センターでは新たに鶏に桑を混合した資料を与えたとところ、肉も柔らかく、味もよく、効果は明らかであった、と報告した。



朱万福、潘文権、羅小潔の3研修員を囲んでの懇親会

現在のプロジェクトは来年で終了するが、朱主任は来年以降もJICAの支援が継続されるよう希望した。